

吉野復興大臣新潟県訪問ぶら下がり記者会見録
(平成30年8月25日(土)10:50~10:55 於)新潟県長岡市)

1. 発言要旨

今日はPTA全国大会で、福島県の風評被害についてお願いと説明をして参りました。

放射線に対する理解が少ないものですから、風評被害が起きておりますので、まずは福島県に来ていただき、放射線というものをきちんと理解をして知ってもらい、そして来てもらう、食べてもらう、こういうお願いをしたところでは。

また復興庁では「放射線のホント」というパンフレットをつくらせていただいております。今日、全員に配布をしたところですが、各国と福島県の放射線量はほぼ同じというところがほとんどでございます。そういう実態もよく知っていただきたいというふうにお願いをしたところでは。

文科省で放射線についての副読本を今、作成中です。改訂版ですけど、その副読本を使って、まず学校の先生方にきちんと子供たちに教えてほしい、そして保護者の皆さんには副読本を読んでいただいて、家庭内で放射線についてお話をしてほしい、こういうお願いをしたところでは。

例えばですね、放射線とは別ですけど、福島県には福島議定書というものがございまして、電気代と水道代を基準値からいかに下げるかというコンクールですけど、子供たちは学校の水道を箸の太さで覚えてます。箸の太さで十分洗うことができるわけでございます。ですから、子供たちも箸の太さで覚えているんですけど、いざ実際家庭に帰ってみると、おばあちゃんが洗い物をするときにジャージャー水道を出す。そうすると、子供たちから、「おばあちゃん、箸の太さ」というふうに教えてもらうことができる。こんな形で放射線についても家庭内でいろいろ話題として取り上げてほしいな、こんな思いで今日はお願いをしてきたところでは。

2. 質疑応答

(問) 今回ですね、福島県の風評被害についてのお話をされたということですがけれども、ここ新潟県もですね、柏崎刈羽原子力発電所がもう既に再稼働問題ということが一つの問題となっていて、そのあたりについてですね、復興大臣として御見解をお願いします。

(答) 再稼働の問題、これは所掌外なので、コメントは差し控えていきたいと思えます。

(問) 福島もですね、再稼働、福島県の実際に事故が起きてしまっ、その後の問題、多分、対応ということで今、大臣もいろいろ対策を打たれているかと思うんですけども、そういった、地域の問題ではいかがでしょうか。

(答) 私は正に福島5区、双葉郡といわき市を選挙区とする者でございます、双葉郡は7年5か月たっても、まだ大熊町、双葉町、避難解除がされておられません。

ですから、私はあの原発事故を二度と起こさせない、起こらないためにも、実は野党のときに原子力規制委員会を議員立法でつくった者の一人として、二度と福島のような原発事故は起こさないというようなことでもつくりさせていただきました。

(問) 話が前後するんですけども、このPTAの全国研究大会に来賓として参加された、その経緯について。

(答) 小中学校の大会は、2回目です。先週、佐賀県で高等学校のPTA全国大会にも出席させていただいて、同様のことをお願いしてまいりました。

特に、福島県への教育旅行がまだ生徒の数で6割、学校数で7割という、まもなく7年半が経ちますが、そういう状態でございますので、まずは修学旅行を、きちんと学校関係者の皆様方ありますから、来ていただきたいという、そういうお願いをしたところです。

(問) 新潟県にも福島とか、被災地からたくさんの避難者の方がまだいっぱいいらっしゃるって、そういう方に対する一言をいただけますでしょうか。

(答) かつて、新潟県が一番、多くの福島県の被災者を受け入れてくれたということでございますので、本当に感謝を申し上げます。

現在も多くの方々が避難を余儀なくされておりますので、自主避難者も含めてですね、福島県として相談窓口、復興庁の予算でやっているんですけど、全国に26か所ございます。

そういう意味で私、23か所めぐってまいりました。正に現場と、現場の最先端で行ってる相談業務でございますので、今のステージですと、いかに生活再建をしていただくかという形でNPO等々の支援者の方々が、また福島県の復興支援等々を、頑張っているところです。

(以 上)